

ピアホームだより

2011. 3. 10

東京都相談支援従事者研修から

2月2日、後半の東京都相談支援従事者研修がありました。この研修は、障がい当事者の生の声を聞き、その生活ニーズを把握して支援計画に活かしていくことを目的としているようです。障がいを持つ一聴覚障害・視覚障害・肢体不自由者・知的障害・内部障害・高次機能障害・精神障害の皆さんから代わる代わる実感のこもるお話を頂きました。一同に集まってお話しされたことから、障がいそれぞれの特徴が分り、身近かなものとなりました。印象に残った一人、高次障害の方のお話を紹介します。

高次障害については、これまで漠としたイメージしか持っていませんでしたが、精神障がいにも通じる日常の様々な困難を良く表現されており、回復に向けた日々の格闘に感

動を覚えました。

例えば、このような記述がありました。受傷してから困ったことの一つは、会話です。友人達との会話のスピードについて行けず友人とも離れました。また、就労の場での記述には、何よりも咄嗟の対応が出来ないことが私にはとても辛い事でした。一とあります。しかし、現在、調布ドリームで社会復帰に向け、一步一步着実に前進しています。そして、同じ悩みを持つ障がい者にこの様な場所があることを知ってほしいと心から呼びかけていらっしやいます。

精神障がいの発表は宮澤さんと石山さんでした。宮澤さんはトライザブルースカイというセルフヘルプグループ代表でダーツクラブを主宰し、海外へも出かけると言う活発な活動をしている方でした。地域の資源を上手に利用しているところが参考になると思います。石山さんは、ベテランで、同じようにみつば会というセルフヘルプグループに所属しています。自分の体験をベースに本当の精神病の姿を伝えるために小説「幽閉」を書いたということです。当初は自費出版、

2000年に萌文社から再版し、書店流通されているそうです。

お2人とも、自分のネットワークをつくり、障がいをものともせず、生き生きと生活している様子が窺えました。

板橋区地域自立支援協議会研修に参加

2月9日、講師に泉恵造研企画工房の泉恵造さんを迎え、第2回研修会・支え合いネットワークを考えるワークショップが開催されました。

板橋区障がい者福祉課課長、部長の出席を得、都のサポートも頂いたものでした。

グループに分かれ、意見交換をしながら板橋区の福祉の未来像をつくりあげ、ポスターセッションのような発表をしました。行政の施策をなぞったものとなる中、斬新な切り口の発表もあり、感心しました。果たして、やりっぱなしにならないよう願うばかりです。

3月の行事

<3月7日>アドボカシー法律事務所

<3月9日>ケースカンファ(JHCいずみ)

<3月12日>理事会